(断熱変化における理想気体のする仕事) adiabatic1-040209qa.tex

- 1. 初め温度が  $T_0$  である理想気体の体積が断熱的に 3 倍に膨張した。比熱比を  $\gamma$  ,気体定数を R として、この気体のする仕事 W を  $\gamma$  , R ,  $T_0$  で表す関係式を求めよ。ただし、断熱変化の場合、理想気体の圧力 P ,体積 V の間に、 $PV^\gamma = {\rm constant}$  (ポアソンの法則)が成立する。
- $2.1 \mod ($ モル) の理想気体が初め温度  $25\mathrm{C}$  で、 $\gamma = 1.40$  であるとき、気体が (外界に) した仕事を計算せよ ( [joule ] 。ただし、 $R = 8.3145 \mathrm{joule}$  /( $\mathrm{K} \cdot \mathrm{mol}$ ) とする。

## (解答例)

1. 初めの体積, 圧力( $V_0, p_0$ ), 終わりの体積 (V, p), 今は  $V = 3V_0$ ) の場合に気体が外部に行う仕事 W

$$W = \int_{V_0}^{V} p dV. \tag{1}$$

断熱変化であるからポアソンの法則より、 $pV^{\gamma}=p_{o}V_{0}^{\gamma}$ を式(1)に代入して

$$W = p_o V_0^{\gamma} \int_{V_0}^{3V_0} V^{-\gamma} dV = \frac{p_o V_0^{\gamma}}{1 - \gamma} \{ (3V_0)^{1 - \gamma} - V_0^{1 - \gamma} \}$$

$$= \frac{p_o V_0^{\gamma}}{1 - \gamma} (3^{1 - \gamma} - 1) V_0^{1 - \gamma} = \frac{3^{1 - \gamma} - 1}{1 - \gamma} p_0 V_0$$

$$= \frac{1 - 3^{1 - \gamma}}{\gamma - 1} R T_0$$
(2)

2. 与えられた具体的な値を式(2)代入して

$$W = \frac{1 - 3^{-0.4}}{0.4} \times 8.3145 \frac{\text{joule}}{\text{K}} \times (273 + 25) \text{K}$$
  
= 2203 joule (3)

3. 第一問の別解:

熱力学第一法則を断熱過程に適用すると、

$$\Delta U = Q - W = -W, \tag{4}$$

$$W = -\Delta U = -C_v(T - T_0), \tag{5}$$

となる。ここで、理想気体では $U=C_vT+{
m constant}$ であることを用いた。一方、断熱過程の場合、 $pV^\gamma={
m constant}$ に状態方程式  $pV=RT,\,p_0V_0=RT_0$  を代入して  $TV^{\gamma-1}=T_0V_0^{\gamma-1}$  となる。これらより

$$T = T_0 \left(\frac{V_0}{V}\right)^{\gamma - 1}.\tag{6}$$

理想気体の性質 (マイヤーの法則 )  $C_p-C_v=R$  より  $C_v=R/(\gamma-1)$  となるので

$$W = \frac{R}{\gamma - 1} (T_0 - T_0(\frac{V_0}{V})^{\gamma - 1}) = \frac{1 - 3^{1 - \gamma}}{\gamma - 1} R T_0.$$
 (7)